

今月号より、
佐藤智充副院長著述の連載(全6回)が
始まります。
赤十字の成り立ちから現在まで、
これを読めばあなたも赤十字通！！



戦争と災害と赤十字

はじめに

この記事を読んでいる皆さんの中にはディズニーランドが大好きで、毎年必ず（毎月必ず？）遊びに行く人もいることであろう。ディズニーランドで遊んだ後はマクドナルドのハンバーガーを食べて、翌日からの過酷な勤務を出来るだけ考えないようにしながら帰路についているのであろうか・・・(笑)。

赤十字を作ったアンリ・デュナンの名前は赤十字病院に勤める職員たちにとっては当たり前な話しであるかもしれないが、ディズニーランドを作ったウォルト・ディズニーやマクドナルドの創業者であるレイモンド・アルバート・クロックが第一次世界大戦のときに赤十字に所属し、戦傷者の搬送活動を行っていたことを知っている人は殆どいない。第一次世界大戦のことはまた詳しく後述しようと思う。

他にも「老人と海」の作者であるアーネスト・ヘミングウェイ、「華麗なるギャツビー」の作者であるフランシス・スコット・フィッツジェラルドなども赤十字で活動をしていたのだが、トリビアとして覚えておいてもらいたいものである。

折角の遊びの気分が萎えるかもしれないが、ディズニーランドに遊びに行ってマクドナルドのハンバーガーを食べる際には今一度赤十字の事を思い起こしてもらえればと思う。

私が小野田赤十字病院に入職して13年の歳月が経った。

「赤十字」という組織に属し、副院長として全国の赤十字にお勤めになられている先生方とお会いして様々な話しをしていると、強烈に頭脳明晰な先生も居られて（手前味噌とは思いつつも）赤十字という組織が大変に面白く、且つ崇高であり、他の病院とは一線を画した組織に見える。

それは日本赤十字社の名誉総裁が皇后陛下、名誉副総裁が皇太子殿下・同妃殿下、秋篠宮妃殿下等々の皇族であることや、昭和27年の議員立法である日本赤十字社法の制定など「法律」として存在していることもあるが、それだけではなく、日本国内のみならず世界最大の人道支援団体として1864年のジュネーブ条約に遡るまでの長い歴史と国際赤十字・赤新月社連盟や赤十字国際委員会として世界189か国の国と団体が批准する巨大組織であることも意味が大きい。

赤十字の成り立ち自体は「戦争による負傷者」を敵味方分け隔てなく救済する精神に則って組織されたものであり、それは日本国内に於いても西南戦争（現代日本の歴史における最後の内戦）をきっかけとしたものであるため、「戦争と赤十字」を切り離して考えることは出来ない。

現在の日本国には第二次世界大戦以降は国対国の戦争も存在しないし、勿論内戦も存在しない平和国家としての地位を確立しており、これから先の将来も（「日本国民は、恒久の平和を念願し・・・」と日本国憲法の前文にも書かれているとおり）平和が恒久するものと願うばかりであるが、ちょっとでも世界を見回せばテロや内戦が頻発しており、世界中から戦争が一切なかった平和な時間は一秒たりとも存在しなかったし、隣国である韓国と北朝鮮ですら朝鮮戦争は「終戦」しておらず、現在はあくまでも「休戦」しているだけの状態である。

赤十字に身を置くものとして私たちが属する赤十字を成り立ちから現在に至るまでをまとめてみたいと思い立った。数回の連載で世界または日本国内に於ける戦争と赤十字との関係、または戦争そのもの、または現在までの災害救護活動やボランティア活動等々・・・私の思いつくものを気ままに書いてみたいと思う。

次号（第1回）は赤十字を作ったアンリ・デュナンの話しから始めたいと思う。

文責 佐藤智充

～ 筆者プロフィール ～



小野田赤十字病院 副院長 佐藤 智充（さとう ともみつ）

1970年、山口県生まれ

2004年、山口大学大学院先端分子応用医科学講座

診療科：外科

専門医資格等：日本外科学会外科専門医

マンモグラフィ読影認定医

がん治療認定機構がん治療認定医

感染制御医（ICD）

医療災害コーディネーター